

第2 主要な告示

1 一般廃棄物処理実施計画

横浜市告示第173号

一般廃棄物処理実施計画

廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）第6条第1項の規定に基づき、一般廃棄物処理実施計画を次のとおり定めたので、横浜市廃棄物等の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例（平成4年9月横浜市条例第44号）第40条第2項の規定に基づき、告示する。

平成31年3月29日 横浜市長 林 文子

1 目的

一般廃棄物処理実施計画は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号。以下「法」という。）及び横浜市廃棄物等の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例（平成4年9月横浜市条例第44号。以下「条例」という。）に基づき、横浜市の一般廃棄物の処理に関する事業計画を単年度ごとに定めるものである。

2 計画期間

平成31年4月1日から平成32年3月31日まで

3 ごみ処理実施計画

(1) 処理計画量（単位：トン）

総排出量			
	家庭系	事業系	計
ごみ量	567,200	300,700	867,900
焼却量	567,000	297,600	864,600
直接埋立量	200	3,100	3,300
資源化量	267,700	57,100	324,800
計	834,900	357,800	1,192,700

最終処分量	
焼却灰量	126,000
直接埋立量	3,300
計	129,300

(2) 重要な取組

ア 食品ロスの削減

「SDGs」など、国際的にも食品ロスが課題となっており、本市の家庭から出る生ごみの約6割を食品ロスが占めている。市民・事業者と一体となって、食品ロス削減の取組を加速させていく。

イ プラスチック対策の推進

国が取りまとめている「プラスチック資源循環戦略」を踏まえ、ごみ分別の徹底、プラスチックの3Rを一層推進し、より良い環境を未来へ継承していくため、プラスチック問題の解決に向けて取り組んでいく。

(3) 主な取組

ア 3R行動に向けた環境学習・プロモーションの推進

(ア) 環境学習・普及啓発の取組

a 3R夢（スリム）環境学習の取組

- ・授業でごみと資源の流れを学習する小学4年生全員に対し、学習補助教材として3R夢学習副読本を配付し、焼却工場等の見学と併せた環境学習を実施する。
- ・分別や3R、まちの美化行動のきっかけとなるよう、小・中学生を対象とした「ヨコハマ3R夢！ポスターコンクール」を実施し、入賞作品の展示や活用を行う。
- ・職員が保育園や幼稚園、小学校などに出向き、ヨコハマ3R夢の学習を行う出前教室を実施する。

- b 普及啓発の取組
 - ・イベント、住民説明会など様々な機会を捉え、3R行動の実践に向けた広報・啓発を行う。
 - ・事業者や地域で活動する団体等と連携し、3R推進に向けた普及啓発を図る。
 - ・外国人、大学生、子育て世帯など、対象者に合わせた啓発を行う。
 - ・「リデュース（発生抑制）」を中心とした取組を進め、マイバッグやマイボトル等の利用を促進し、レジ袋や使い捨て容器の削減を推進する。
- c 焼却工場等での取組
 - ・焼却工場を市民に開かれた啓発拠点とし、イベントや見学会等の実施、市民と連携した普及啓発活動などを通じ、3R行動の推進を図る。
 - ・南本牧第5ブロック廃棄物最終処分場で見学会を開催し、啓発VTRなどを活用して広報・啓発を行う。

イ 安全・安心と市民サービスの向上

- (ア) 家庭ごみの安定かつ効率的な収集運搬業務
 - ・集積場所に分別排出された家庭ごみを、燃やすごみは市が、資源物は委託により安定かつ効率的に収集する。
 - ・集積場所の適切な維持管理、環境改善の取組を推進するため、地域の方々の相談に丁寧に対応するとともに、優良表彰制度を実施する。
 - ・要望が多いネットボックスの貸出を引き続き行う。
 - ・燃やすごみ収集運搬業務の効率化と焼却工場の安定稼働を図るため、市内4か所（神奈川、保土ケ谷、戸塚、神明台）に設置している中継施設について、管理運営及び運搬業務を委託により実施する。
- (イ) 粗大ごみの排出の利便性向上
 - ・粗大ごみの受付業務及び収集運搬業務について、委託により実施する。
 - ・粗大ごみ受付センターを安定的に運用し、高い水準での市民サービスを提供する。また、デジタルソリューションを活用し、受付時間の短縮や問い合わせの縮減に繋げる。
 - ・問い合わせや受付をスムーズに行うため、AIを活用したチャットやSNS等の活用を検討する。
 - ・電話とインターネットで5か国語（英語・中国語・ハングル・スペイン語・ポルトガル語）対応を行う。
 - ・粗大ごみの自己搬入について、市内4か所（鶴見資源化センター、港南ストックヤード、長坂谷ストックヤード、神明台ストックヤード）で受け入れる。
 - ・自己搬入ヤードの利便性向上に向け、拡充を含めた検討を行う。
 - ・再利用できる粗大ごみについて、収集事務所や焼却工場、イベントなどの場を活用して、市民に無償で提供する。
 - ・粗大ごみ処理手数料の見直し・検討を行う。
- (ウ) ごみ出し等でお困りの方への支援
 - ・ごみの持ち出しが困難な一人暮らしの高齢者等を対象に、玄関先等からごみを収集するふれあい収集を、区福祉部門と情報共有しながら推進する。
 - ・区役所や健康福祉局と連携し、いわゆる「ごみ屋敷」の解消を進める。
 - ・外国人移住者にごみ出しルールが浸透していくよう、働きかけを行う。
 - ・道路が狭いため、塵芥車が通行することができず、ごみ集積場所を自宅近くに設けられない地域において、軽四輪車が進入できる範囲内でごみ集積場所を設置し、ごみを収集する「狭あい道路収集」の取組を行う。
 - ・一人暮らしの高齢者など、指定の場所まで粗大ごみを持ち出すことが困難な方を対象に、自宅内まで粗大ごみの収集に伺う「粗大ごみ持ち出し収集」の取組を行う。
- (エ) 収集車両の維持管理
 - ・安定的な収集運搬業務を実施するため、収集車両の保全や燃料の調達等を行うとともに、車両の更新を行う。
- (オ) 災害廃棄物処理計画の運用
 - ・横浜市災害廃棄物処理計画の中で平時の取組として掲げている事項（防災訓練、施設の強化、市民周知、仮置場候補地選定など）について実施する。具体的には、災害廃棄物に関する理解を市民に広めるため、地域防災拠点運営委員会連絡協議会などの場を通じた広報などを実施する。

(カ) 処理体制の強化

- ・初動体制強化に向け、方面本部ごとの訓練、事業者との合同防災情報伝達訓練などを行うとともに、職員の意識向上のための防災研修などを実施する。

ウ 食品ロスの削減

(ア) 食品ロス削減の取組

a 食品ロス削減に向けた広報啓発の強化

- ・「食」の大切さの理解と具体的な行動につなげるため、環境、食育、地産地消、健康づくり、飢餓、貧困、福祉など、多角的な視点から広報啓発を行う。
- ・事業者と連携し、食品ロス削減行動を呼びかけるキャンペーンを実施する。
- ・消費者・事業者の行動につなげるため、企業・団体等で構成する推進母体により、食品ロス削減や食を大切にするライフスタイルの呼びかけを行う。
- ・食品ロス削減に向けた市民一人ひとりの決意を掲げた写真でのフォトモザイクアートを作成し、食品ロス削減を呼びかける。
- ・SNSを活用し、食品ロス削減行動を食品支援につなげることで、市民・事業者の行動が継続される取組を検証する。
- ・食品ロス削減を着実に進めるため、指標等による進行管理を行う。

b 「食」について考えるイベント等の開催

- ・企業・団体等と連携し、「食」を考えるイベント等を開催する。
- ・食材を無駄にしない保存や調理の工夫、災害時の食の備えなど、家庭での実践に役立つ講習会等を開催する。

(イ) フードバンク・フードドライブ活動の推進

- ・フードバンク団体や社会福祉協議会と連携し、区民まつりやイベント等でフードドライブを実施する。
- ・小売店舗など身近な場所で食品を持ち寄れる環境づくりを進める。

(ウ) 生ごみ減量化の取組

- ・土壌混合法による生ごみの減量化・堆肥化のメリットなど、住民説明会や講習会、広報等を行い、認知度の向上を図る。
- ・保育園・学校・地域等が生ごみをたい肥化して花や野菜を育てる3R夢農園の取組を推進する。
- ・自治会等への器材貸出や個人向けにスターターキットを配付するなど、取り組みやすい環境を作り、普及拡大を図る。
- ・生活の中で発生する生ごみの水切りを推進する。

(エ) 事業者から出される食品ロスの削減

- ・飲食店等を対象とした「食べきり協力店」事業について、30年度に新たに作成したロゴマークやキャッチコピーを活用し、利用者や登録店舗の増加に向け、様々な機会を捉えて、市民や事業者への働きかけを行う。
- ・食品廃棄物の発生抑制等について、他の模範となる事業者を「横浜市食の3Rきら星活動賞」として表彰する。
- ・事業者への立入調査や研修会等、様々な機会を捉え食品廃棄物削減の働きかけを行う。

エ まちの美化

(ア) ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組

a 競技会場周辺の美化対策

- ・ラグビーワールドカップ2019™開催時期に合わせた競技会場周辺の歩道清掃を強化する。また、市内で活動する美化ボランティアグループとごみ拾いイベントを行う。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック開催に向け、ポイ捨てごみの状況調査を行う。

b 競技会場周辺での喫煙対策

- ・海外から訪れる方が屋外での喫煙ルールで戸惑うことがないように、「喫煙禁止地区」や「歩きたばこ・吸い殻等のポイ捨て禁止」について、ホームページで広報を行う。
- ・試合当日、大会を観戦する国内外の方に向け、喫煙所の案内や喫煙マナーの呼びかけなどを行う。

- (イ) きれいなまちの維持
- a 繁華街・観光地の清掃強化
 - ・観光客の増加が見込まれる繁華街・観光地の歩道清掃を強化する。特にT I C A D 7 開催時期は、会場周辺であるみなとみらい2 1 地区の歩道清掃を重点的に実施する。
 - b 地域の美化活動支援
 - ・日頃から駅周辺などで清掃活動・美化活動に取り組む方々の支援を行う。
 - ・ハロウィンやスポーツ大会などの機会を捉えたごみ拾いイベントを実施する。
 - ・SNSを通じた情報発信や、SNS利用者への清掃道具等の提供を行う。
- (ウ) 路上喫煙・歩きタバコ防止の取組
- a 喫煙禁止地区の取組
 - ・市内8 地区の喫煙禁止地区において、指導員による巡回指導や喫煙所の管理・清掃を行う。
 - ・新市庁舎周辺の喫煙禁止地区指定の準備を進める。
 - ・横浜駅周辺について、夜間の「喫煙マナー・美化啓発パトロール」を実施する。
 - b 歩きタバコの防止
 - ・市内主要駅周辺で、歩きタバコ防止の啓発パトロールを朝夜の通勤時間帯及び休日の日中に実施する。
 - ・ポスターの掲示箇所を拡大し、歩きタバコをなくすための広報を重点的に行う。
 - ・歩きタバコやポイ捨ての特に多い場所の対策を、区とともに検討し取り組む。
- (エ) 不法投棄防止対策の推進
- ・不法投棄を防止するため、看板等による啓発や、夜間監視パトロールなどを実施する。
 - ・不法投棄された廃家電等の早期撤去及びリサイクル処理により、生活環境の保全及び環境美化の推進を図る。
 - ・「横浜市放置自動車及び沈船等の発生の防止及び適正な処理に関する条例」に基づき、放置自動車の廃物認定を実施するとともに、認定前の一時移動など、迅速な撤去・処理を行い、発生を防止する。

オ リサイクルの推進

- (ア) 家庭ごみリサイクルの取組
- a 缶・びん・ペットボトル
 - ・市内4 か所の選別施設（鶴見、金沢、緑、戸塚）で品目別に選別し、さらに缶は材質別、びんは色別に選別する。
 - ・選別した資源物は、売却・指定法人への引渡しにより資源化を行う。
 - b プラスチック製容器包装
 - ・プラスチック製容器包装は、市内3 か所の中間処理施設（民間施設）で、異物除去・圧縮・梱包し、指定法人への引渡し又は資源化委託による資源化を行う。
 - ・中間処理施設から離れた地域で収集したプラスチック製容器包装について、運搬業務の効率化を図るため、ストックヤードを使用した積替運搬を行う。
 - c 小型家電
 - ・小型家電は、区役所などの公共施設のほか、排出利便性の高い大型スーパーマーケットやホームセンター等の商業施設の協力により回収ボックスを設置して回収し、認定事業者へ売却する。
 - d その他資源物のリサイクル
 - ・分別収集した資源物の売却や資源化委託を実施する。
 - ・リサイクル施設に赴き、処理工程の確認や書類の提出などにより、市民が分別した資源物が確実にリサイクルされていることを確認する。
 - e 資源集団回収の促進
 - ・自治会町内会やマンション管理組合、子ども会等の登録団体が、回収業者と契約を結んで行う自主的な減量・リサイクル活動である資源集団回収を促進するため、登録団体及び回収業者に対し、奨励金を交付する。
 - f 分別・リサイクルの更なる取組
 - ・分別されていないごみの取り残しや、分別が徹底されていない地域を中心とした啓発・指導を実施する。
 - ・未分別の多い品目（古紙やプラスチック製容器包装）について、更なる分別の徹底を図る。

- ・多様な資源の回収ルートを確認し、分別排出の利便性を向上させるため、一部の区役所・地区センター、収集事務所、資源回収センターにおいて資源物の回収を行う。
 - ・燃えないごみとして収集したガラス・陶磁器類の再資源化を行う。
 - ・集積場所及び資源集団回収場所に出された資源物等を持ち去る行為を防止するため、事業者と連携を図りながら、持ち去り通報の多い地域を中心にパトロール隊による巡回・指導を行う。
- (イ) 市役所ごみゼロ推進事業
- ・市役所も一事業者として、ごみの削減と資源化に率先して取り組み、適正なごみ処理を推進するため、ルート回収事業を行う。
- (ウ) 排出事業者による3R行動の推進
- ・大規模事業所への立入調査や商店街、繁華街での訪問調査を行う。
 - ・新任廃棄物管理責任者講習会や出前講座を開催するなど、排出事業者への啓発を行う。
 - ・事業系廃棄物の発生抑制や分別排出など、積極的に3R活動を行っている事業所を「横浜市3R活動優良事業所」として認定する。
- (エ) 事業系ごみの分別の徹底と資源化の推進
- ・焼却工場において搬入物検査を実施し、廃プラスチック類や金属類等の産業廃棄物の不適正搬入を防ぐとともに、シュレッダー紙などの資源化可能な古紙の分別指導を徹底し、事業系ごみの資源化の徹底と適正処理を促進する。
 - ・公園や街路樹などのせん定作業により排出された木くずや、飲食店等から発生する生ごみなどについて、民間リサイクル施設への誘導、資源化を推進する。
 - ・事業系ごみの収集運搬業及び処理施設の許可業者に対して、適正処理を推進するため、立入調査を行うとともに廃棄物関連法令や交通安全などに関する講習会を開催する。
- (オ) 一般廃棄物収集運搬業の許可（詳細は、「横浜市一般廃棄物収集運搬業の許可に関する基本方針」のとおり）
- ・現在許可を受けている事業者により適正処理が確保されているため、新たな許可は行わない。（本市処理施設に搬入しない場合又は、取扱廃棄物が車道清掃に伴い収集するごみの場合は、許可を行う。）

カ 地球温暖化対策・エネルギーマネジメント

- (ア) 省エネルギー化に向けた施設の改修
- a 空調・照明の更新など
 - ・廃棄物処理関連施設での空調・照明設備等の省エネルギー機器への更新を計画的に進め、各施設でのエネルギー消費量の削減を図る。
 - b 焼却工場での長寿命化対策と併せた設備等の改良
 - ・高効率設備の導入や関連設備の改良を進め、更なる省エネルギー化を図る。
- (イ) 市役所ごみゼロにおけるバイオマスプラスチック製ごみ袋の試行的導入
- ・環境への負荷を低減するため、バイオマスプラスチック製ごみ袋を資源循環局で試行的に導入する。
- (ウ) 焼却工場のエネルギーの有効活用
- ・金沢工場等で発電した電力の一部を電力負荷のピークカットとして株式会社横浜シーサイドラインに送る（自己託送）。

キ 持続可能なストックマネジメント

- (ア) ごみ処理施設の安定稼働に向けた対応
- a 施設の補修、職場環境の改善
 - ・焼却工場など廃棄物処理関連施設について、法令で定められた点検の実施や老朽化した機器の適切な補修を行い、安定稼働を図る。
 - ・衛生・空調設備などの計画的な改修を行い、働きやすい職場環境の整備を進める。
 - b ごみ処理施設のライフサイクルコストの低減
 - ・焼却工場では、稼働25年を目途に、焼却炉などの主要設備の更新により10年程度の延命化を図る長寿命化対策工事を進め、再整備時期の延伸によるライフサイクルコストの低減につなげる。

・平成30年度から、鶴見工場の長寿命化対策工事を5か年で進めており、平成31年度は焼却炉のプラント工事に着手する。

- (イ) 未利用土地・施設の有効活用
 - ・焼却工場跡地などの大規模な用地を中心に、廃棄物処理事業での活用や、都市計画的な視点を踏まえた土地利用、売却等について検討を進める。平成31年度は、旧磯子輸送事務所などの土地活用に向けた調査等を行う。
- (ロ) 工場整備基本構想等委託事業
 - ・ごみ処理を持続的、安定的に行うため、計画的な工場の整備を進める。平成31年度は、焼却工場の基本構想の検討を行う。
- (ハ) 南本牧第5ブロック廃棄物最終処分場の運営管理と延命化
 - ・南本牧第5ブロック廃棄物最終処分場を円滑に運営管理し、廃棄物を適正に処理する。
 - ・ごみの減量化に取り組むとともに、計画的な焼却灰の資源化を推進し、最終処分場の延命化を図る。
- (ニ) 焼却工場の適切な運営
 - ・電力使用量の削減による環境負荷の低減や、薬品等の経費削減を図るなど、工場の適正な運営に努める。
 - ・一時休止している保土ヶ谷工場について、中継施設としても活用する。
- (ホ) 焼却工場の保全
 - ・金沢工場のバグフィルターのろ布の交換及び脱硝反応塔の触媒の交換を行う。
 - ・焼却炉耐火物やボイラーなどの適切な補修等を実施し、焼却工場の安定稼働を継続する。
- (ヘ) 焼却工場における環境保全調査
 - ・焼却工場の適正な運営管理のため、環境法令等に基づき、排ガスや排水、焼却灰、土壌、汚泥等中の有害物質の調査を行う。
- (ヘ) 事業系ごみ24時間受入
 - ・収集業者の利便性を向上させ、迅速な収集が可能となり、街の美化にもつながる事業系ごみの24時間受入を金沢工場で行う。
- (ヘ) 最終処分場（南本牧）における放射線対策
 - ・処分場内水の放射性物質濃度の上昇時に備え、排水処理施設のセシウム除去工程をいつでも稼働できるよう、準備体制を継続する。
 - ・最終処分場排水処理施設への流入水や放流水、周辺海水等について、定期的に放射性セシウムの測定を行い、結果をホームページ等に公表する。
- (コ) 積極的な財源確保に向けた取組
 - ・国庫補助対象の拡充に向けた国への働きかけに加え、回収した資源物の売払い収入や工場で発電する電力の売払い収入などを引き続き確保する。

ク 国際展開・技術開発の推進

- (ア) 廃棄物分野における国際協力
 - a Y-POR T等を通じた支援業務の推進・公民連携のプラットフォームづくり
 - ・環境省やJICA等の関連機関と連携し、ベトナム国ダナン市、フィリピン国メトロセブ等での廃棄物課題解決に向けた支援業務を推進する。
 - ・アジアをはじめとする新興国への市内廃棄物関連事業者の海外ビジネス展開に向け、関連のワークショップや勉強会を実施し、公民連携による取組を進める。
 - b アフリカ諸国・都市の支援業務の推進
 - ・29年度に設立した「アフリカのきれいな街プラットフォーム」において、引き続き、研修生の受入やフォローアップなどを行う。
 - ・TICAD7に併せ「アフリカのきれいな街プラットフォーム」の年次会合が横浜で開催されることから、本市の廃棄物分野における国際技術協力の取組を積極的にPRする。
 - c 国際プロモーション・受入環境整備・国際人材の育成
 - ・国際会議への参加や関連イベント実施の機会を捉え、本市廃棄物施策の取組をPRする。

- ・焼却工場などの視察受入施設における多言語の案内、研修機能の充実にに向けた環境整備、国際人材育成に向けた講演会等を実施する。

(イ) I o T ・ A I の活用

- ・プラントメーカーと連携し、焼却工場における省エネルギー化や安定稼働など、効果的な運営につながる I o T ・ A I 技術の導入等の検討を行う。
- ・焼却工場の稼働状況の管理や、それに伴う搬入車両との調整など、I o T の導入に向けた課題整理や実証実験などについて検討する。
- ・エリアごとのごみの排出量、組成分析、公民の収集車両の運行実績、工場の焼却実績など多岐に渡るデータを積極的に公表し、公民連携での活用の視点からデータ整理のあり方について検討する。
- ・関係局とともに、プラットフォームなどを通じて、廃棄物に関する民間からの提案を求め協議を進める。
- ・公民連携により開発した A I 活用のチャットボット「イーオのごみ分別案内」を本格実施し、本市からの情報発信など、利便性や市民サービスの向上に取り組む。

ケ 適正処理の推進

(ア) P C B 廃棄物の適正処理に向けた対応

a 届出されている P C B 廃棄物の対応

- ・市内事業所で保管されている P C B 廃棄物の適正処理に向けて指導を進める。
- ・市役所保管分について、引き続き、計画的に処理を実施する。

b 未把握の P C B 廃棄物等の対応

- ・ P C B 使用電気機器を所有している可能性のある事業者等に対し、掘り起こし調査を行い、早期の届出、処理につなげる。
- ・高濃度 P C B 含有塗料を使用している可能性のある昭和41年から49年の期間に建設または塗装された市役所所有施設を調査し、処分期間内の計画的な処理につなげる。

(イ) 戸塚区品濃町最終処分場対策

- ・特別措置法に基づく特定支障除去等事業の事業期間となっている平成34年度までに水質目標を達成するよう、排水処理施設の維持管理を行う。

(ウ) 水銀含有製品の回収に向けた取組

- ・家庭での水銀体温計や血圧計などについて、区役所、収集事務所での拠点回収を行う。
- ・焼却工場では、水銀を含む製品が混入した場合に備え、活性炭噴霧などの対策を行う。

(エ) 南本牧廃棄物最終処分場（第2ブロック）

- ・埋立終了後の適正な維持管理を行う。また、早期土地活用の実現に向け、最終覆土工事や不要となる施設の撤去を行う。

(オ) 神明台処分地等の運営・管理

- ・神明台処分地の管理を委託により行う。
- ・旧処分地の管理を行う。
- ・排水処理施設を適正に維持管理することで、放流水の水質を適正に管理し、放流先河川等の汚濁の防止及び環境の保全を図る。

(カ) 処分地環境保全調査

- ・神明台処分地及び南本牧最終処分場の大気、土壌、水質について、ダイオキシン類等の周辺環境に対する影響調査を行う。

コ プラスチック対策の推進

(ア) プラスチック削減の取組

- ・レジ袋やペットボトル、ストローなどの使い捨てプラスチック（以下「ワンウェイプラスチック」という。）の削減やプラスチックごみの散乱防止に向けた取組を進める。
- ・ワンウェイプラスチックの削減を進めるため、イベントや住民説明会など様々な機会を捉えて広報・啓発を行う。

- ・スーパーマーケットやコンビニエンスストア等の事業者と連携し、ワンウェイプラスチックの削減に向けたキャンペーンなどを進める。
- ・市民や事業者との協働により、都市部や沿岸部などにおいて、多くの人がごみ拾いに参加してもらえるような取組を進める。
- ・ポイ捨てや不法投棄対策を推進するため、啓発看板の作成などを進める。
- ・資源循環局において、バイオマスプラスチック製ごみ袋を試行的に導入するなど、プラスチック対策を実践する。

(4) 収集・運搬計画

ア 区域

横浜市全域

イ 分別の区分と排出・収集運搬方法

(7) 家庭ごみ

a 行政回収

- (a) 燃やすごみ、燃えないごみ、スプレー缶、乾電池、プラスチック製容器包装、缶・びん・ペットボトル、小さな金属類、粗大ごみ

	分別の区分		排出方法		収集運搬方法
		説明			
1	燃やすごみ	この表の2から7までの項、8項及び3(4)イ(7) a (b) 古紙及び古布に属さないもの(3(4)ウ横浜市が収集しないごみを除く。)	集積場所(集積場所を利用しようとする市民等が協議のうえ位置を定め、その場所を	透明又は半透明の袋(以下「半透明の袋」という。)又はふた付きの容器で排出	週2回、集積場所にて収集(燃やすごみの日に収集)
2	燃えないごみ	ガラス製品、陶磁器製品、その他焼却しないもの(この表の6項及び8項に該当するものを除く。)及び蛍光灯、電球	市に申し出て、市が収集可能であると確認した場所のみとする。)ごとに指定された曜日の朝8時まで	購入時の箱や新聞紙などで包み、製品名を表示して排出	(※1)
3	スプレー缶	主として金属でできているエアゾール缶(カートリッジ式ガスボンベを含む。)	に排出(※1)(※2)	中身を出し切り、半透明の袋で排出	
4	乾電池	一次電池のうち、マンガン乾電池、アルカリ乾電池、ニッケル系一次電池及びリチウム電池		半透明の袋で排出	
5	プラスチック製容器包装(※3)	商品の容器包装のうち、主としてプラスチック製のもの(この表の6項のペットボトルに該当するものを除く。)であって、次に掲げるもの (1) 箱及びケース (2) 瓶 (3) たる及びおけ (4) カップ形の容器及びコップ (5) 皿 (6) くぼみを有するシート状の容器 (7) チューブ状の容器 (8) 袋 (9) (1)から(8)までに掲げるものに限る構造・形状等を有する容器 (10) 容器の栓・ふた・キャップその他これらに類するもの		中身を残さないようにし、容器を軽くすすぐ又はふいて、中身がはっきりと確認できる半透明の袋又はふた付きの容器で排出	週1回、集積場所にて収集(プラスチック製容器包装の日に収集)(※1)

		(11) 容器に入れられた商品の保護又は固定のために、加工・当該容器への接着等がされ、当該容器の一部として使用される容器 (12) 包装		
6	缶・びん・ペットボトル	商品の容器のうち、 缶：鋼製又はアルミニウム製の缶（カップ形のものを含む。）であって、飲食品（飲み薬を含む。以下「飲食品」という。）が充てんされたもの びん：主としてガラス製の①瓶、②カップ形の容器及びコップ、③皿、④①～③に準ずる構造・形状等を有する容器であって、飲食品が充てんされたもの ペットボトル：主としてポリエチレンテレフタレート製の瓶又はそれに準ずる構造・形状等を有する容器であって、飲料、しょうゆ、しょうゆ加工品、みりん風調味料、食酢、調味酢又はドレッシングタイプ調味料が充てんされたもの	ふたをはずし（缶はふたが本体と分離した場合に限る。プラスチック製のふたはプラスチック製容器包装として、金属製のふたは小さな金属類として排出）、中をすすいで、半透明の袋又はふた付きの容器に、缶・びん・ペットボトルを一緒に入れて排出、缶・びんはつぶさずに排出、ペットボトルについては、ラベルをはずし（プラスチック製のラベルは、プラスチック製容器包装として排出）、つぶして排出	週1回、集積場所にて収集（缶・びん・ペットボトルの日に収集）（※1）
7	小さな金属類	主として金属でできているもの（以下「金属製」という。）で、一辺が30センチメートル未満のもの及びかさの骨（この表の3項及び6項に該当するものを除く。）	袋に入れずに排出（ただし、細かくて散乱するおそれのあるものは袋に入れる。刃物等危険なものは新聞紙などで包み製品名を表示して排出）	
8	粗大ごみ	金属製のもので、一辺が30センチメートル以上のもの（かさの骨を除く。）及び金属製以外で50センチメートル以上のもの（3(4)イ(7) a (b)古紙及び古布に該当するもの・3(4)イ(ウ)横浜市建築物等における不良な生活環境の解消及び発生防止を図るための支援及び措置に関する条例（平成28年9月横浜市条例第45号）第6条第3項の規定により排出された一般廃棄物並びに3(4)ウ横浜市が収集しないごみを除く。）	次のいずれかの方法による。 (1) 電話又はインターネットによる申込み後、粗大ごみ収集シール（手数料納付済みのもの）を貼付して、指定された日の朝8時まで指定された場所へ排出 (2) 電話又はインターネットによる申込み後、粗大ごみ収集シール（手数料納付済みのもの）を貼付して、排出者自らが3(4)エに定める搬入先に搬入する	申込みの際に指定した日及び場所にて収集

※1 ふれあい収集における排出方法及び収集運搬方法については、対象者との取り決めによる。

※2 集積場所への排出のほか、この表の2から7までの項については、排出者自らが、資源循環局事務所（緑事務所及び北部事務所を除く。）、長坂谷ストックヤード（緑区寺山町745番地）内へ持ち込むことができる。

1項については、7月と8月の水曜日と木曜日に限り、排出者自らが、資源循環局事務所（北部事務所を除く。）に持ち込むことができる。

1項及び2項（蛍光灯及び電球を除く。）については、資源循環局事務所に申し込み、排出者自らが、3(5)アに定める施設に搬入することができる。

6項については、排出者自らが、港南資源回収センターに持ち込むことができる。

※3 容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（平成7年法律第112号）第2条第2項及び第3項に規定する「特定容器」及び「特定包装」のうち、主としてプラスチック製の容器包装（ペットボトル以外のもの）のこと。（ただし、在宅医療により排出されるビニールバッグ類については「燃やすごみ」として排出）

(b) 古紙及び古布

	分別の区分		排出方法	収集運搬方法
		説明		
1	古紙	新聞、段ボール、紙パック、雑誌・その他の紙（新聞、段ボール、紙パック、雑誌以外の紙）（汚れが著しいもの、銀紙、裏カーボン紙、内側がアルミ張りの紙パック、捺染紙（アイロンプリント用熱転写紙）、感熱発泡紙、ヨーグルト・アイスクリームの紙製容器、カップ麺の紙製容器、洗剤の紙製容器、石けんの個別包装紙は除く。）	新聞、段ボール、紙パック、雑誌・その他の紙を種類ごとにまとめ、ひもでしばって排出（その他の紙で大きさの揃わないものや、細かい物は、紙袋又は半透明の袋に入れて排出）（※1）	※2
2	古布	主として繊維でできている製品（衣類、シーツ、毛布、カーテン、タオル、ハンカチ、タオルケット、布団カバー（汚れ、破れ、綿入れのものは除く。））	半透明の袋で排出（※1）	

※1 排出者自らが、資源循環局事務所（緑事務所及び北部事務所を除く。）、長坂谷ストックヤード（緑区寺山町745番地）内及び港南資源回収センターへ持ち込むことができる。また、段ボールを除き、排出者自らが、各地域に設置されている資源回収ボックスに持ち込むことができる。

※2 「ふれあい収集の利用者が排出する場合」、「繁華街の家庭系ごみに事業系ごみが紛れてしまうことが想定される場所で、繁華街戸別収集を行う場所のうち、資源集団回収による回収ができない場合」及び「その他市長が必要と認める場合」には、指定した日時及び場所にて収集

(c) 小型家電

	分別の区分		排出方法	収集運搬方法
		説明		
1	小型家電	電気、電池で作動する製品（蛍光灯、電球を除く、30センチメートル×15センチメートルの投入口に入る、長さ30センチメートル未満の製品に限る。）	電池類を取り外し、区役所や資源循環局事務所等に設置されている回収ボックスへ排出。また、金属製の製品は3(4)イ(7) a(a) 7項小さな金属類として、その他の製品は3(4)イ(7) a(a) 1項燃やすごみとしても排出できる。（パーソナルコンピュータを除く。）	随時

b 資源集団回収

品目	排出方法	収集運搬方法
(1) 古紙類（新聞、雑誌・その他の紙、段ボール、紙パック） (2) 布類 (3) 金属類（アルミ缶・スチール缶（食料用・飲料用）） (4) びん類	登録団体と登録業者との契約による。	登録団体と登録業者との契約による。（※）

※ 自然災害等の事情によりやむを得ない場合は、市長が収集を行うことができる。

(イ) 事業系ごみ（事業活動に伴って生ずる一般廃棄物）

	分別の区分		排出場所	排出方法	収集運搬方法
		説明			
1	資源化可能な古紙	新聞、段ボール、紙パック、雑誌、オフィス紙、ミックスペーパー（名刺、封筒、葉書、メモ用紙、付せん紙等の細かな紙類、包装紙、紙袋、菓子箱、割り箸袋、シュレッダー紙など）（資源化に適さない可能性のあるもの（※）は除く。）	次のいずれかとする。 (1) 排出事業者自らが運搬する場合は、分別の区分に応じて、3(5)イに記載された施設まで運搬し排出 (2) 当該事業活動を行う敷地内に排出（3(4)イ(7) a 行政回収の「排出方法」欄において排出場所として使用される集積場を除く。）	新聞、段ボール、紙パック、雑誌、オフィス紙、ミックスペーパーを品目ごとに分別し排出	排出事業者自らが運搬又は法第7条第1項ただし書きに規定する専ら再生利用の目的となる一般廃棄物（以下「専ら物」という。）のみを収集運搬する業者若しくは排出事業者の委託を受けた本市の一般廃棄物収集運搬業許可業者が収集運搬
2	資源化可能な古紙以外	この表の1項の分別の区分に属さないもの（別表に記載された廃棄物を除く。）	この表の1項の分別の区分に属さないもの（別表に記載された廃棄物を除く。）	産業廃棄物を混入させずに排出。ただし、一般廃棄物と産業廃棄物の混合物（以下「混合物」という。）であって、それらを分離させることができない場合又は混合物を排出時に分離させないことについてやむを得ない事情があり、かつ処分先で分離されることが確実である場合はこの限りではない。	排出事業者自らが運搬又は専ら物のみを収集運搬する業者（専ら物を扱う場合に限る。）若しくは排出事業者の委託を受けた本市の一般廃棄物収集運搬業許可業者が収集運搬。 産業廃棄物又は分別した資源化可能な古紙と混合するおそれのないように、区分して運搬すること。ただし、この項の排出方法欄のただし書きに係るものについてはこの限りではない。 排出事業者の混合物を運搬する者は、本市の一般廃棄物及び産業廃棄物の収集運搬業の許可を取得していなければならない。
	住居に併置する事業所又は福祉関係事務所から排出される事業系一般廃棄物（横浜市廃棄物等の減量化、資源化及び適正処理等に関する規則第9条の要件を満たし、規則第10条に定める届出を行った事業所に限る。）	3(4)イ(7) a 行政回収の分別の区分に準ずる。	住居に併置する事業所は、3(4)イ(7) a 行政回収の「排出方法」欄において排出場所として使用される集積場所に排出 福祉関係事務所は指定された場所に排出	3(4)イ(7) a 行政回収の排出方法に準じ、かつ排出時の半透明の袋に事業所名を明記し、 専 と表示する。	3(4)イ(7) a 行政回収の収集運搬方法に準ずる。

※ 資源化に適さない可能性のあるものとは、金属がついた紙、粘着物のついた紙、臭いのついた紙、感光紙、ビニールコート紙、ワックス加工品、油紙、防水加工紙、捺染紙（アイロンプリント用熱転写紙）、ターポリン紙、硫酸紙、感熱発泡紙、感熱紙、カーボン紙、ノンカーボン紙、合成紙等をいう。

(ウ) その他

区分	排出方法	収集運搬方法
動物の死体 (遺棄動物の死体に限る。)	—	電話申込みにより随時収集
不法投棄	—	毎日（日曜・年末年始を除く。）収集
横浜市建築物等における不良な生活環境の解消及び発生を防止を図るための支援及び措置に関する条例第6条第3項の規定により排出された一般廃棄物	排出者との取り決めによる。	排出者との取り決めによる。
地域清掃、その他	随時排出	随時収集

ウ 横浜市が収集しないごみ

区分	品目	排出方法
排出禁止物（条例第30条第1項関連）	特定家庭用機器廃棄物（特定家庭用機器再商品化法（平成10年法律第97号）第2条第5項に規定する特定家庭用機器廃棄物をいう。以下、同じ。）であるエアコン・テレビ・冷蔵庫・冷凍庫・洗濯機・衣類乾燥機、自動車、オートバイ、FRP船、パーソナルコンピューター（3(4)イ(ア) a(c)に該当するものを除く。）、消火器、大量の自転車、タイヤ（自動車、バイク）、自動車・二輪車用バッテリー、小型充電式電池、ボタン電池、プロパンガスボンベ、高圧ガス容器、ピアノ、廃油、塗料、薬品類、耐火金庫、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（昭和46年政令第300号）第3条第1号ホに規定する石綿含有一般廃棄物（非飛散性のものは除く）、その他収集及び処理に著しい支障を及ぼすもの	メーカー及び販売店等に相談し、適正に処理を行うこと。
	廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（昭和46年政令第300号）第3条第1号ホに規定する石綿含有一般廃棄物のうち、非飛散性のもの	排出者自ら又は一般廃棄物収集運搬業者に収集運搬を委託し、南本牧第5ブロック廃棄物最終処分場に搬入する。
一時多量ごみ	収集作業に支障を生じるもの	排出者自ら又は一般廃棄物収集運搬業者に収集運搬を委託し、市長の指定する施設に搬入する。

エ 粗大ごみを排出者が持ち込む場合の搬入先（条例別表第1関連）

家庭から排出される粗大ごみを排出者が自ら持ち込む場合（排出者の委任を受けた一般廃棄物収集運搬業者が持ち込む場合を含む。）は、電話又はインターネットによる申込み後、次の施設に搬入するものとする。

搬入先	所在地
鶴見資源化センター	鶴見区末広町1丁目15番地の1
港南ストックヤード	港南区日野南三丁目1番2号
長坂谷ストックヤード	緑区寺山町745番地の45
神明台ストックヤード	泉区池の谷3,949番地の1

オ 横浜市が処分する一般廃棄物の運搬先として、市長が指定する施設（条例第 37 条第 1 項及び同条第 2 項並びに別表第 1 関連）

施設名	所在地
鶴見工場	鶴見区末広町 1 丁目 15 番地の 1
保土ヶ谷工場（※）	保土ヶ谷区狩場町 355 番地
旭工場	旭区白根二丁目 8 番 1 号
金沢工場	金沢区幸浦二丁目 7 番地の 1
都筑工場	都筑区平台 27 番 1 号
南本牧第 5 ブロック廃棄物最終処分場	中区南本牧 3 番の 1 及び 4 番の 1 地先
神明台ストックヤード	泉区池の谷 3, 949 番地の 1
鶴見資源化センター	鶴見区末広町 1 丁目 15 番地の 1

※ 一時休止中のため、災害時など緊急的な場合に限る。

(5) 処理・処分計画

ア 家庭ごみ

(7) 行政回収

区分	搬入先（中継施設は除く。）		処理方法
	施設名	所在地	
燃やすごみ、可燃性の粗大ごみ（資源化可能な粗大ごみを除く。）	鶴見工場	鶴見区末広町 1 丁目 15 番地の 1	焼却
	保土ヶ谷工場（※）	保土ヶ谷区狩場町 355 番地	
	旭工場	旭区白根二丁目 8 番 1 号	
	金沢工場	金沢区幸浦二丁目 7 番地の 1	
	都筑工場	都筑区平台 27 番 1 号	
不燃性の粗大ごみ（資源化可能な粗大ごみを除く。）	南本牧第 5 ブロック廃棄物最終処分場	中区南本牧 3 番の 1 及び 4 番の 1 地先	埋立て
スプレー缶、燃えないごみ	鶴見ストックヤード	鶴見区末広町 1 丁目 15 番地の 1	資源化
	保土ヶ谷ストックヤード	保土ヶ谷区狩場町 355 番地	
	旭ストックヤード	旭区白根二丁目 8 番 1 号	
	金沢ストックヤード	金沢区幸浦二丁目 7 番地の 1	
	都筑ストックヤード	都筑区平台 27 番 1 号	
	神奈川ストックヤード	神奈川区新浦島町 2 丁目 4 番地の 2	
	戸塚ストックヤード	戸塚区名瀬町 443 番地の 1	
神明台ストックヤード	泉区池の谷 3, 949 番地の 1		
乾電池	神明台ストックヤード	泉区池の谷 3, 949 番地の 1	
プラスチック製容器包装	民間処理施設		
缶・びん・ペットボトル	鶴見資源化センター	鶴見区末広町 1 丁目 15 番地の 1	
	金沢資源選別センター	金沢区幸浦二丁目 7 番地の 1	
	緑資源選別センター	緑区上山一丁目 3 番 1 号	
	戸塚資源選別センター	戸塚区上矢部町 1, 921 番地の 12	
小さな金属類	鶴見ストックヤード	鶴見区末広町 1 丁目 15 番地の 1	
	金沢ストックヤード	金沢区幸浦二丁目 7 番地の 1	
	緑資源選別センター	緑区上山一丁目 3 番 1 号	
	戸塚資源選別センター	戸塚区上矢部町 1, 921 番地の 12	
	神明台ストックヤード	泉区池の谷 3, 949 番地の 1	

資源化可能な粗大ごみ	再使用可能な家具類	栄リユース品ヤード	栄区上郷町 1,570 番地の 1	再使用
		神明台リユース品ヤード	泉区池の谷 3,949 番地の 1	
	金属製品	栄粗大金属ヤード	栄区上郷町 1,570 番地の 1	資源化
		神明台粗大金属ヤード	泉区池の谷 3,949 番地の 1	
	羽毛布団	鶴見ストックヤード	鶴見区末広町 1 丁目 15 番地の 1	
		旭ストックヤード	旭区白根二丁目 8 番 1 号	
都筑ストックヤード		都筑区平台 27 番 1 号		
古紙	鶴見ストックヤード	鶴見区末広町 1 丁目 15 番地の 1	資源化	
	保土ヶ谷ストックヤード	保土ヶ谷区狩場町 355 番地		
	都筑ストックヤード	都筑区平台 27 番 1 号		
	港南ストックヤード	港南区日野南三丁目 1 番 2 号		
	神明台ストックヤード	泉区池の谷 3,949 番地の 1		
古布	鶴見ストックヤード	鶴見区末広町 1 丁目 15 番地の 1	資源化・再使用	
	保土ヶ谷ストックヤード	保土ヶ谷区狩場町 355 番地		
	都筑ストックヤード	都筑区平台 27 番 1 号		
	港南ストックヤード	港南区日野南三丁目 1 番 2 号		
	神明台ストックヤード	泉区池の谷 3,949 番地の 1		
小型家電	神明台ストックヤード	泉区池の谷 3,949 番地の 1	資源化	

※ 一時休止中のため、災害時など緊急的な場合に限る。

(イ) 資源集団回収

品目	搬入先	処理方法
古紙類（新聞、雑誌・その他の紙、段ボール、紙パック）、布類、金属類（アルミ缶・スチール缶（食料用・飲料用））、びん類	民間処理施設	資源化・再使用

イ 事業系ごみ、一時多量ごみ

区分	搬入先		処理方法	
	施設名	所在地		
資源化可能な古紙	専ら物（古紙に限る。）の処分を業として行う者の施設		資源化	
資源化可能な古紙以外	専ら物（古紙を除く。）	当該専ら物のみの処分を業として行う者の施設		
	木くず、生ごみ（※1）	一般廃棄物処分業者が運営する施設又はこの表の可燃性の廃棄物の搬入先		
	可燃性の廃棄物（別表に記載された廃棄物を除く。）	鶴見工場	鶴見区末広町 1 丁目 15 番地の 1	焼却
		保土ヶ谷工場（※2）	保土ヶ谷区狩場町 355 番地	
		旭工場	旭区白根二丁目 8 番 1 号	
		金沢工場	金沢区幸浦二丁目 7 番地の 1	
都筑工場	都筑区平台 27 番 1 号			
一時多量ごみのうち、粗大ごみの規格（※3）に該当するもの	3(4)エに定める搬入先		焼却、埋立て及び資源化	
一時多量ごみのうち、小さな金属類（※4）、乾電池、スプレー缶、蛍光灯及び電球	神明台ストックヤード	泉区池の谷 3,949 番地の 1	資源化	

不燃性の廃棄物 (ただし、本表の神明台 ストックヤードに持ち込 むもの及び別表に記載さ れた廃棄物を除く。)	南本牧第5ブロック廃棄物 最終処分場	中区南本牧3番の1及び4番の1地 先	埋立て
--------------------------------------------------------------------	-----------------------	-----------------------	-----

※1 資源化可能なものについては、一般廃棄物処分業者が運営する施設での資源化を推奨する。

※2 一時休止中のため、災害時など緊急的な場合に限る。

※3 3(4)イ(7) a (a) 8項該当

※4 3(4)イ(7) a (a) 7項該当

ウ その他

区分	搬入先 (中継施設は除く。)		処理方法		
	施設名	所在地			
動物の死体 (遺棄動物の死体に限る。)	鶴見工場	鶴見区末広町1丁目15番地の1	焼却		
	旭工場	旭区白根二丁目8番1号			
	金沢工場	金沢区幸浦二丁目7番地の1			
	都筑工場	都筑区平台27番1号			
不法投棄、横浜 市建築物等にお ける不良な生活 環境の解消及び 発生の防止を図 るための支援及 び措置に関する 条例第6条第3 項の規定により 排出された一般 廃棄物、地域清 掃、その他	缶、びん、ペット ボトル	鶴見資源化センター	鶴見区末広町1丁目15番地の1	資源化	
		金沢資源選別センター	金沢区幸浦二丁目7番地の1		
		緑資源選別センター	緑区上山一丁目3番1号		
		戸塚資源選別センター	戸塚区上矢部町1,921番地の12		
	一辺が30センチ メートル未満の 金属製品	鶴見ストックヤード	鶴見区末広町1丁目15番地の1		
		金沢ストックヤード	金沢区幸浦二丁目7番地の1		
		緑資源選別センター	緑区上山一丁目3番1号		
		戸塚資源選別センター	戸塚区上矢部町1,921番地の12		
	一辺が30センチ メートル以上の 金属製品	神明台ストックヤード	泉区池の谷3,949番地の1		
		栄粗大金属ヤード	栄区上郷町1,570番地の1		
	神明台粗大金属ヤード	神明台粗大金属ヤード	泉区池の谷3,949番地の1		
可燃性の廃棄物	鶴見工場	鶴見区末広町1丁目15番地の1	焼却		
	旭工場	旭区白根二丁目8番1号			
	金沢工場	金沢区幸浦二丁目7番地の1			
	都筑工場	都筑区平台27番1号			
不燃性の廃棄物	南本牧第5ブロック廃棄物 最終処分場	中区南本牧3番の1及び4番の1地 先	埋立て		

4 し尿等処理実施計画

(1) 処理計画量

し尿・浄化槽等汚泥 (単位：キロリットル)	
処理量	30,370
し尿	5,946
浄化槽等汚泥	24,424

(2) 主な取組

ア し尿の収集運搬等

(イ) し尿等の適切な処理（収集・運搬・処分）

- ・し尿を適正に収集運搬するため、し尿収集事務所の運営及び収集車両の維持管理を行う。
- ・市内でくみ取りしたし尿等について、し尿前処理施設で前処理した後、水再生センターへ圧送する。
- ・し尿等の適正な処理を行うため、し尿前処理施設の運営・維持管理を行う。

(ロ) 浄化槽の設置審査や維持管理の指導等

- ・浄化槽によるし尿等の適正な処理や公共用水域の水質汚濁の防止を図るため、市内の浄化槽の設置審査や維持管理の指導等を行う。

(ハ) ラグビーワールドカップ2019TM、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた競技会場・観光地周辺の公衆トイレ対策

- ・ラグビーワールドカップ2019TM開催期間中を中心に、競技会場・観光地周辺の公衆トイレの清掃を強化し、清潔なトイレを維持する。
- ・市内5か所の公衆トイレを全面改修し、段差解消や温水洗浄便座設置など、利便性を向上する。

(ニ) 公衆トイレの維持管理

- ・和便器の残る公衆トイレについて、洋便器へ改修するとともに、LED照明に更新し、省エネルギーを進める。
- ・日常清掃や速やかな故障対応など、適切な維持管理を行う。
- ・鶴見駅西口公衆トイレの再整備に着手する。
- ・泉区深谷通信所跡地にトイレを整備する。

(ホ) 災害時下水直結式仮設トイレの整備、災害時トイレ対策の啓発

- ・地域防災拠点等に、災害時下水直結式仮設トイレを順次整備する。また、防災訓練やイベント等へ参加し、仮設トイレの使用方法やトイレバックの使用方法及び家庭での備蓄について啓発を行う。

(ヘ) 一般廃棄物収集運搬業の許可（詳細は、「横浜市一般廃棄物収集運搬業の許可に関する基本方針」のとおり）

- ・現在許可を受けている事業者により、適正処理が確保されているため、新たな許可は行わない。

(3) 収集・運搬計画

ア 区域

横浜市全域

イ 排出の区分と収集・運搬方法

区分	収集方法
し尿	一般収集：おおむね月2回収集
	臨時収集：申請により収集（※）
浄化槽等汚泥	一般廃棄物収集運搬業の許可を受けた浄化槽清掃業許可業者が浄化槽管理者等の依頼に基づき収集

※ 臨時収集については、事業活動に伴い設置された仮設トイレを、申請に応じて収集する。（手数料の徴収有）

(4) 処理・処分計画

区分	搬入先		処理方法
	施設名	所在地	
し尿 浄化槽等汚泥	磯子検認所	磯子区新磯子町 38 番地	下水道施設による 処理

別表

区分	品目
可燃性の廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定家庭用機器廃棄物（特定家庭用機器再商品化法第 2 条第 5 項に規定するもの） ・ 焼却不適物（液体、大量の粉末、直径 20 センチメートル以上又は長さ 50 センチメートル以上のもの（破砕機を使用する場合は長さ 300 センチメートル以上のもの）、焼却設備に損傷を与えるおそれがあるもの、感染性廃棄物、毒物・劇物（毒物及び劇物取締法第 2 条に規定するもの）又は動物の死体（駆除又は遺棄動物の死体を除く。）、その他処理に著しい支障を及ぼすもの）
不燃性の廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> ・ PCB が付着又は混入しているもの ・ 油分が付着又は混入しているもの ・ 水中に投じて油膜が生じるもの ・ 水中に投じて浮遊するもの ・ 毒物・劇物 ・ 著しい発色性、発泡性、飛散性、発火性又は臭気を有するもの ・ 中空であるもの ・ 概ね 30 センチメートルを超えるもの

2 再生利用等促進物の指定

告示番号	告示年月日	指定する再生利用等促進物	指定期日
第 154 号	平成 7 年 5 月 25 日	食品容器としてのリターナブルびん 事業活動に伴って発生した古紙	平成 7 年 6 月 1 日
第 156 号	平成 8 年 5 月 15 日	食品容器としてのアルミ缶, スチール缶, ワンウェイびん	平成 8 年 6 月 1 日
第 264 号	平成 8 年 10 月 25 日	食品容器としてのペットボトル, 紙パック	平成 9 年 4 月 1 日
第 80 号	平成 12 年 3 月 24 日	食品用発泡スチロールトレイ	平成 12 年 4 月 1 日

3 適正処理困難物の指定

告示番号	告示年月日	適正処理困難物	指定期日
第 252 号	平成 7 年 12 月 5 日	指定 スプリングマットレス 大型テレビ (25 型以上) 大型冷蔵庫 (250 リットル以上)	平成 7 年 12 月 5 日
第 440 号	平成 13 年 3 月 23 日	指定の解除 大型テレビ (25 型以上) 大型冷蔵庫 (250 リットル以上)	平成 13 年 4 月 1 日
第 367 号	平成 17 年 8 月 25 日	指定 アスベストを含むもの	平成 17 年 8 月 25 日

4 美化推進重点地区の指定

指定地区名	指定年月日
鶴見駅周辺地区 東神奈川・仲木戸駅周辺地区 横浜駅周辺地区 みなとみらい 2 1 地区 関内地区 山下・元町地区 伊勢佐木・野毛地区 弘明寺地区 上大岡・港南中央駅周辺地区 天王町・星川駅周辺地区 鶴ヶ峰駅周辺地区 磯子駅周辺地区 金沢文庫駅周辺地区 新横浜地区 十日市場駅周辺地区 あざみ野駅周辺地区 中川駅周辺地区 戸塚駅周辺地区 本郷台駅周辺地区 いずみ中央駅周辺地区 瀬谷駅周辺地区	平成 8 年 4 月 1 日
二俣川駅周辺地区 中山駅周辺地区 センター地区 東戸塚駅周辺地区	平成 18 年 11 月 24 日
南区総合庁舎・阪東橋駅周辺地区	平成 28 年 4 月 1 日
日吉駅周辺地区	平成 30 年 10 月 1 日

5 自動販売機の届出対象地区の指定

指定地区名	指定年月日
鶴見駅周辺地区 東神奈川・仲木戸駅周辺地区 横浜駅周辺地区 みなとみらい 2 1 地区 関内地区 山下・元町地区 伊勢佐木・野毛地区 弘明寺地区 上大岡・港南中央駅周辺地区 天王町・星川駅周辺地区 鶴ヶ峰駅周辺地区 磯子駅周辺地区 金沢文庫駅周辺地区 新横浜地区 十日市場駅周辺地区 あざみ野駅周辺地区 中川駅周辺地区 戸塚駅周辺地区 本郷台駅周辺地区 いずみ中央駅周辺地区 瀬谷駅周辺地区	平成 8 年 4 月 1 日
二俣川駅周辺地区 中山駅周辺地区 センター地区 東戸塚駅周辺地区	平成 18 年 11 月 24 日
南区総合庁舎・阪東橋駅周辺地区	平成 28 年 4 月 1 日
日吉駅周辺地区	平成 30 年 10 月 1 日

6 喫煙禁止地区の指定

指定地区名	指定年月日
横浜駅周辺地区 みなとみらい21地区 関内地区	平成20年1月21日
鶴見駅周辺地区 東神奈川・仲木戸駅周辺地区	平成21年3月10日
新横浜駅周辺地区	平成22年3月1日
戸塚駅周辺地区	平成30年3月1日
二俣川駅周辺地区	平成30年10月1日

7 横浜市が処分する産業廃棄物

横浜市告示第 324 号

横浜市が処分する産業廃棄物（昭和 46 年 12 月横浜市告示第 247 号）の一部を次のように改正し、平成 30 年 4 月 25 日から施行する。

平成 30 年 4 月 25 日 横浜市長 林 文子

第 1 横浜市の焼却施設で処分する産業廃棄物

種類	1 1 日平均 100 キログラム以下とし、これを合わせて 1 箇月 3 トン以下 2 食料品製造業、医薬品製造業又は香料製造業において原料として使用した動物又は植物に係る固形状の不要物で、前処理したもの 3 その他特に市長が適当と認めたもの
量	1 1 日平均 100 キログラム以下とし、これを合わせて 1 箇月 3 トン以下 2 上記の算定基準によることが実情にそわない場合に、1 箇月 10 立方メートル以下 3 ただし、その他特に市長が適当と認めたものについては、1 及び 2 の規定によらないものとする。
形状	あらかじめ、中空の状態でないようにし、かつ、おおむね 50 センチメートル以下に破碎し、又は切断したもの。ただし、その他特に市長が適当と認めたものについては、市長の指示に従い適切な形状等にしたもの
排出者	横浜市内の中小企業の事業者及びその他特に市長が適当と認めた事業者で、上記の産業廃棄物を横浜市の施設へ搬入することについて、市長に届け出て、その指示を受けたもの
搬入者	上記の届出をした事業者
備考	横浜市が行う一般廃棄物の処分に支障を及ぼすと市長が認めた場合は、上記の産業廃棄物の全部又は一部について、搬入を制限することがある。

第 2 横浜市の最終処分場で処分する産業廃棄物

種類	1 燃え殻 2 汚泥 3 鉱さい 4 ばいじん 5 廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を含む。） 6 ゴムくず 7 金属くず 8 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含む。） 9 がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む。） 10 その他特に市長が適当と認めたもの ただし、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等を除く。
形状等	1 ポリ塩化ビフェニルが付着し、又は封入されていないもの 2 油分が付着し、又は封入されていないもの 3 水中に投じて油膜が生じないもの 4 水中に投じて浮遊しないもの 5 毒物及び劇物（毒物及び劇物取締法（昭和 25 年法律第 303 号）第 2 条に規定する毒物、劇物及び特定毒物）が付着し、又は混入されていないもの 6 著しい発色性、発泡性、飛散性、発火性及び臭気を有しないもの 7 中空の状態でないもの 8 燃え殻については、熱しゃく減量 15 パーセント以下であって、別表に示す判定基準に適合するもの。 粉末状のものについては、大気中に飛散しないように加湿するなど必要な措置を行ったもの 9 汚泥については、水分 85 パーセント以下であって、流動性がなく、別表に示す判定基準に適合するものとし、かつ有機性汚泥にあっては、焼却施設等で熱しゃく減量 15 パーセント以下にしたもので、別表に示す判定基準に適合するもの。 粉末状のものについては、大気中に飛散しないように加湿するなど必要な措置を行ったもの 10 鉱さいについては、おおむね最大径 30 センチメートル以下であって、別表に示す判定基準に適合するもの 11 ばいじんについては、あらかじめ大気中に飛散しないように梱包するなどの必要な措置を行ったもので、別表に示す判定基準に適合するもの 12 廃プラスチック類については、おおむね最大径 15 センチメートル以下に破碎若しくは、切断したもの又はおおむね最大径 30 センチメートル以下に熔融固化したもので比重 1.1 以上であるもの

	<p>13 ゴムくずについては、おおむね最大径 15 センチメートル以下に破碎若しくは、切断したもの又はおおむね最大径 30 センチメートル以下に熔融固化したもので比重 1.1 以上であるもの</p> <p>14 金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず並びにがれき類については、おおむね最大径 30 センチメートル以下に破碎し、又は切断したもの</p> <p>15 感染性産業廃棄物については、焼却して感染性を消滅させたものであって、別表に示す判定基準に適合するもの</p> <p>16 その他特に市長が適当と認めたものについては、おおむね最大径 30 センチメートル以下に破碎し、又は切断したもので、別表に示す判定基準に適合するもの</p>
排出者	横浜市内の中小企業の事業者及びその他特に市長が適当と認めた事業者で、上記の産業廃棄物を横浜市の最終処分場へ搬入することについて、あらかじめ、市長に届け出て、その指示を受けたもの
搬入者	上記の届出をした事業者及び届出をした事業者から委託を受けた産業廃棄物収集運搬業者
備考	横浜市が行う廃棄物の処分に支障を及ぼすと市長が認めた場合は、上記の産業廃棄物の全部又は一部について、搬入を制限することがある。

別表

判定基準

	項目	基準値 (溶出試験、ダイオキシン類のみ含有量試験)
有害物質	アルキル水銀化合物	検出されないこと
	水銀又はその化合物	0.005 mg/l 以下
	カドミウム又はその化合物	0.09 mg/l 以下
	鉛又はその化合物	0.3 mg/l 以下
	有機リン化合物	0.2 mg/l 以下
	六価クロム化合物	0.5 mg/l 以下
	ひ素又はその化合物	0.3 mg/l 以下
	シアン化合物	1 mg/l 以下
	ポリ塩化ビフェニル	0.003 mg/l 以下
	トリクロロエチレン	0.1 mg/l 以下
	テトラクロロエチレン	0.1 mg/l 以下
	ジクロロメタン	0.2 mg/l 以下
	四塩化炭素	0.02 mg/l 以下
	1, 2-ジクロロエタン	0.04 mg/l 以下
	1, 1-ジクロロエチレン	1 mg/l 以下
	シス-1, 2-ジクロロエチレン	0.4 mg/l 以下
	1, 1, 1-トリクロロエタン	3 mg/l 以下
	1, 1, 2-トリクロロエタン	0.06 mg/l 以下
	1, 3-ジクロロプロペン	0.02 mg/l 以下
	チウラム	0.06 mg/l 以下
シマジン	0.03 mg/l 以下	
チオベンカルブ	0.2 mg/l 以下	
ベンゼン	0.1 mg/l 以下	
セレン又はその化合物	0.3 mg/l 以下	
1, 4-ジオキサソ	0.5 mg/l 以下	
ダイオキシン類	3 ng-TEQ/g 以下	

一般性状	※水分	85 %以下
	※含油量	5 %以下

(備考)

- ※印のあるものについては、基準値以下であっても性状により埋立てを不相当とすることがある。
- 溶出試験は、産業廃棄物に含まれる金属等の検定方法 (昭和 48 年環境庁告示第 13 号) による。
- ダイオキシン類の試験は、特別管理一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物に係る基準の検定方法 (平成 4 年厚生省告示第 192 号) 別表第 1 に定める方法による。

8 横浜市放置自動車及び沈船等の発生の防止及び適正な処理に関する条例第3条の規定に基づく総合施策

制 定 平成3年9月25日告示第217号

横浜市放置自動車及び沈船等の発生の防止及び適正な処理に関する条例(平成3年9月横浜市条例第31号)第3条の規定に基づき、横浜市放置自動車及び沈船等の発生の防止及び適正な処理に関する総合施策を次のとおり定め、平成3年10月1日から実施する。

平成3年9月25日 横浜市長 高秀 秀信

1 放置自動車及び沈船等の発生の防止に関する計画

放置自動車及び沈船等の発生を防止するためには、自動車及び船舶を放置し、又は放置させることのない環境づくりが重要です。このため、横浜市は、次の4項目の対策を重点的に推進します。

(1) 所有者等による処理の推進

事業者等による回収ルートの周知及び処理業者に関する情報提供を行うことにより、所有者等による自動車及び船舶の適正な処理を促進し、放置の防止を図ります。

(2) 啓発及び広報活動の推進

横浜市の広報媒体及びキャンペーン活動を通じた啓発及び広報活動を継続的に実施します。

(3) 放置防止対策に関する助言及び指導

放置防止対策を講じようとする土地所有者等に対し、助言及び指導を行います。

(4) パトロールの実施

放置を防止するため、計画的なパトロールを行い、状況に応じパトロール重点区域を設定する等効率的なパトロールの実施体制を整備します。

2 放置自動車及び沈船等の処理に関する計画

放置自動車及び沈船等を適正に処理するためには、その発見から最終処分までの手続を円滑かつ公正に行うことが重要です。このため、横浜市は、次の4項目の対策を重点的に推進します。

(1) 放置状況の把握

情報収集を円滑に行うため、自動車及び船舶について、それぞれ専用の電話を設置し、通報の受付体制を整備します。また、調査開始後の手続を効率的に進めるため、パトロール等により放置状

況の把握に努めます。

(2) 調査

放置されている自動車及び船舶については、横浜市の職員が実地に厳正な調査を行います。

(3) 廃物の処分等

廃物が市民生活に与える影響を最小限にとどめるため、迅速な処分等を行うことができる体制を整備します。また、廃物のうち再資源化が可能な部分については、原材料として利用する等リサイクルに配慮します。

(4) 放置した者に対する措置

放置した者に対しては、横浜市放置自動車及び沈船等の発生の防止及び適正な処理に関する条例その他関係法規を活用し、厳正な措置を講じます。

3 事業者等及び市民の協力に関する計画

放置自動車及び沈船等の発生を防止し、及びこれらを適正に処理するためには、横浜市、事業者等及び市民が一体となって取り組むことが重要です。このため、横浜市は、次の4項目に重点を置いて、事業者等及び市民の協力を求めます。

(1) 事業者等の協力

事業者等による回収を促進するため、回収ルートの拡充及び周知並びに新たな回収方法の整備について、協力を求めます。また、啓発及び広報活動を含め、放置を防止するための積極的かつ自発的な活動を求めます。

(2) 市民の協力

周辺環境への関心を高めるとともに、情報提供その他日常生活において可能な協力を求めます。特に環境事業推進委員等廃棄物処理にかかわりの深い市民には、市民活動のリーダーとして、幅広い協力を求めます。

(3) 市民団体等の協力

市民団体が行う活動及び地域における活動の中に啓発及び広報活動をはじめ、放置防止及び適正処理に関する活動を取り入れるよう協力を求めます。

(4) 地域的美観保持

横浜市、事業者等及び市民が一体となって地域的美観を保持することにより、放置し、又は放置させることのない環境づくりへの協力を求めます。